

行政が取り組む フードパントリー活動

相模原市役所
生活福祉部

主査

健康福祉局
生活福祉課
井上雄輔



令和3年10月13日(水)

自己紹介

フードバンクとの出会い（H23）

- ・生活保護世帯の若者支援。
- ・若者の居場所づくり（東林間駅近く）で、一緒に自炊
- ・食材をセカンドハーベスト様から受領

大学生等食材支援（R2-）

- ・コロナ禍の大学生を支援
- ・閉鎖中の公共施設を活用
- ・フードバンクだけでなく市民、企業、農家を巻き込み若者を応援する機運を醸成

子ども食堂の支援（H29-）

- ・子ども食堂の立ち上げ支援
- ・情報交換会で「食材を欲しい」の声
- ・フードバンクかながわ様と協定締結
- ・子ども食堂への食材提供開始

子育て世代向け食材配布（R2-）

- ・子育て世帯にも支援を、に伝える
- ・セカンドハーベスト様と正式に連携
- ・令和3年からは市民協働提案事業として、個配を実施



1 食材支援現状・課題・経緯

背景・（これまでの）現状分析

- ① 支援現場で出会う、食材支援が必要な人々がいる。
- ② 食材が必要な人の背景は様々（子育て世帯・生活困窮世帯・大学生）

課題

- ① 行政の予算上、食材の名目で提供するの簡単ではない。
- ② 既存の支援はあるものの、即時性が無い。支援の「きっかけ」が無い

このままだと・・・

事態が深刻化・重篤化することが懸念される



フードバンク等から提供いただいた食材の支援をきっかけに、**公的支援の充実を図る。**

- 生活困窮世帯向け食材支援
- 子育て家庭向け食材配布

- 大学生等食材支援

2 相模原市の独自性・強み

子ども食堂への迅速な支援（H29～）

平成29年ごろから、子ども食堂・無料学習支援の立ち上げブームに
⇒子ども食堂⇒子どもの居場所としてとらえ、市施策の方向性
「子どもの遊び場・居場所の確保」として位置付け。

市主催で子ども食堂同士の情報交換会を主催
⇒団体立ち上げのための「子どもの居場所総合相談窓口」を設置
⇒食材が欲しいという団体の声⇒フードバンクとの連携を開始。
⇒団体が活動しやすい環境づくりのための機運醸成

政令市でありながら、目が届く広さ

それぞれの地域性を尊重しながらも、全体が見渡せる
⇒子ども食堂が立ち上がったときもすぐに視察に行ける
⇒担い手の機運醸成にもつながる。周知もできる

強み：素早さ



3 大学生等向け食材支援

提供



フードバンクかながわ



農協

企業

市民
農家

フードバンク
団体

食品の譲渡に関する合意書
(H30.8.8)

HPなどで支援呼びかけ

受領



相模原市



運搬



市職員

月1回 かご車4台分

適時

支援

青少年学習センターなど、市内3か所で毎月1回開催
コロナ禍でバイトができなくなった学生を想定
R2.7～は、「大学生等未来応援事業」として継続

特徴

4 子育て世帯向け食材配布

提供



セカンドハーベストジャパン



フードドライブ事業

農協

企業

市民

フードコミュニティ

食品等の譲渡に関する合意書
(R2.9.29)

市民協働提案事業(R3.4.1～)

受領



相模原市



市民協働提案事業(R3.4.1～)

運搬



フードコミュニティ
(地域のフードバンク団体)

毎月50世帯

支援



配布会場または、個人宅へ配送

児童扶養手当の現況届に案内同封
修学奨励金交付決定世帯への通知に同封

特徴

5 生活困窮者向け食材支援

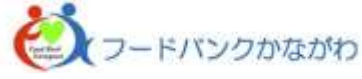
提供



セカンドハーベストジャパン



フードバンクかながわ



相模原市
フード
ドライブ
事業



食品等の譲渡に関する合意書
(R2.9.29)

食品の譲渡に関する合意書
(H30.8.8)

受領



相模原市



相模原市



生活困窮者自立支援事業に係る食品等の運搬に関する合意書(R3.7.7)

運搬



NPO法人
スマイルサポート

市職員

市職員



月3回:各区30世帯分

月1回 かご車1台分

適時

支援



生活困窮者自立支援相談窓口・生活支援課(各区)

窓口来所した相談者に食材配布の情報提供

特徴

各区の相談員が相談者に対して積極的な食糧支援を実施

6 行政がフードバンクを実施するメリットデメリット

メリット

- ① 「役所」が実施することの信頼感
- ② 認知度向上に寄与（広報誌・HP）
- ③ 支援を必要とする層を特定しやすい
- ④ 「次の」公的支援につなげやすい。（生活保護や就労支援など）

デメリット

- ① 失敗ができない。迅速性の部分が弱い
- ② SNS等の拡散力は弱い
- ③ 対象者以外には配布できない（行政が税金を使って実施する場合）
- ④ フードドライブ事業は実施しているものの単独での実施はほぼ不可能
- ⑤ 「フードバンク担当部署」が決まっていない。
（市民協働？ SDGs？ リサイクル？ 福祉？ 子ども？）



むすびに

行政が行うフードパントリー事業は実例が少ないものの、市民の認知度向上、市民福祉向上につながっています。

また、市民のフードバンク団体との協働も進んでおり、お互いに連携し、試行錯誤していきたいです

今後も相模原市から、フードパントリー活動を盛り上げてまいります。

